

生物多様性の保全に配慮した事業活動を推進しています

関連情報をホームページで
ご覧いただけます。

参考

●サントリー愛鳥キャンペーン
<http://www.suntory.co.jp/eco/birds/>

生物多様性を念頭に、事業活動を展開しています

水や農作物を主原料とするサントリーの事業活動は、健全な生態系によって維持されています。

こうした認識に立ち、サントリーでは、工場建設にあたっては、周辺地域の生態系への影響を確認するなど、生物多様性を念頭においた事業活動を展開しています。また、各エリア特性をふまえた動植物の保全活動や、「愛鳥キャンペーン」の実施など、さまざまなかたちで生態系の保全に向けた取り組みを行っています。

地域固有の生態系を守る活動を進めています

全国の生産工場では、各地域固有の生物の多様性を守るために、モニタリング調査の実施や野鳥保護区(バードサンクチュアリ)の設置、希少植物の保全など、地域特性に応じた活動を展開しています。

希少植物の保全～山崎蒸溜所

山崎蒸溜所では、地元にある「乙訓(おとくに)自然を守る会」と連携し、工場内で希少植物である「カリガネソウ」や「サワギキョウ」「フジバカマ」などの植物を栽培・育成しています。



カリガネソウ

緑の国勢調査～登美の丘ワイナリー

山林を含めて約150haの広大な敷地をもつ自家ぶどう園登美の丘ワイナリーには、国蝶のオオムラサキをはじめ、キツネ、トビ、キキョウなどさまざまな動植物が生息しています。ワイナリーでは、社員が参加して、環境省の方法に準じてこれらの動植物の生息状況を観察する「緑の国

勢調査」を毎年行っています。

また、桜の植樹や、昆虫の餌となるエノキ、クヌギの植林などを行い、自然と触れ合いながら動植物の生息環境の保全に取り組んでいます。

Web CSRレポート「サイトレポート 登美の丘ワイナリー」

野鳥保護を通じた自然保護活動「愛鳥キャンペーン」を行っています

“Today Birds, Tomorrow Man” (今、鳥たちに起きていることは将来、人間にとっての問題となるかもしれない)の考えをもとに、1973年、野鳥の保護を通じて自然保護活動に取り組む「愛鳥キャンペーン」を開始しました。

同年には民間企業として初の「バードサンクチュアリ(野鳥の聖域)」を白州蒸溜所に開園し、探鳥会や巣箱掛けなどの愛鳥活動を行っています。また絶滅の危機にあるアホウドリの復活を支援する募金活動、野鳥保護の啓発リーフレットの制作・販売など、さまざまな活動を展開しています。1990年には公益信託「サントリー世界愛鳥基金」を創設し、国内外の鳥類保護団体の活動に関する助成を行い、大きな成果をあげています。



バードサンクチュアリでの巣箱掛け(白州蒸溜所)



啓発リーフレット

Web 自然との共生「生物多様性保全への取り組み」